

津農林水産事務所管内

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	津市
-----	----

当年度交付金額	65,695,000	円 (ほか、市町基金活用	0	円)
---------	------------	--------------	---	----

事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 竹林整備支援事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	1,242,000	1,242,000	0
2 津市森林環境教育事業	3. 森を育む人づくり	488,160	488,160	0
3 美里水源の森整備事業	3. 森を育む人づくり	9,529,000	9,529,000	0
4 津市木材利用促進事業	4. 木の薫る空間づくり	1,500,000	1,500,000	0
5 木質バイオマス利用促進事業	4. 木の薫る空間づくり	42,433,300	42,433,300	0
6 津市公共施設木質化事業	4. 木の薫る空間づくり	3,578,000	3,578,000	0
7 ミツマタ群生を生かした地域づくり事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	6,924,540	6,924,540	0
合計		65,695,000	65,695,000	0

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
1	基本	竹林整備支援事業	
事業費	1,242,000 円(うち交付金	1,242,000 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>竹林整備支援事業 里山整備を促進するため竹破砕機を購入し里山保全団体等に貸し出しを行うことで地域の里山保全事業の促進と里山保全の意欲向上を図る。また竹林整備で発生した竹粉をバイオマス資源として堆肥や飼料に利用できることを周知し、一般の住民に対してバイオマス利用の促進を行う。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 竹林の整備を促進するため、進入路や作業スペースの狭い竹林内で作業が可能で、地元の団体等が運用しやすいよう軽トラックに積載可能な小型の竹破砕機を購入し、地域の里山を地元住民が管理する体制づくりの促進を行えるよう貸出を行う。また発生した竹粉をバイオマスとして堆肥や飼料として利用できることを周知し、一般の住民に木質バイオマス利用の促進を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 津市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないので該当しない。</p> <p>【箇所数】 備品の購入なので該当しない。</p> <p>【事業量】 竹破砕機 1台</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 里山保全関係2団体、病院関係1団体、レジャー施設管理関係1団体（貸出開始は8月以降）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 地元の人が使いやすいような機械、かつ、粉末状まで破砕し竹粉をバイオマス資源として活用するために、「軽トラックで運搬することができる」こと、「粉末状に破砕できる」ことを要件として購入した。</p> <p>【実施した効果】 林業事業体ではケアできない里山において、竹破砕機の貸出しを通して地域の里山保全意欲を高めることにより、森林の有する多面的機能の発揮が期待できる。また発生する竹粉を堆肥等に利用することで広く一般の住民に木質バイオマス利用促進することができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 使用日ごとに「小型竹破砕機管理表」を借用者に御記入いただく形で、適正に管理している。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 地域の里山保全活動団体等が過密状態になった竹林を整備し、健全な状態を維持することで森林の有する多面的機能の発揮と山村地域の活性化を図る。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 小型竹破砕機は軽トラックで簡単に運搬できること、また、小回りが利くので、里山の中まで自走することができ、竹を運ばずに済むので効率が良いことについて、高く評価をいただいた。</p>

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	津市
------	----------------	-----	----

番号	区分	事業名
1	基本	竹林整備支援事業
事業費	1,242,000 円(うち交付金	1,242,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 備品購入(指名競争入札)</p> <p>【実施方法の選定理由】 備品購入のため(地方自治法施行令第167条による)</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札、落札率83.9%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による。</p> <p>【事業費の積算根拠】 事前見積りによる。</p>
--------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 里山保全関係2団体、病院関係1団体、レジャー施設管理関係1団体 8月から3月までで、延べ166日貸出し（稼働率約70%）市への申請が必要であり利用者の把握が可能である。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の備品であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 県民税の活用についてホームページに掲載。</p> <p>【実施中の実績】 事業実施箇所については、税ののぼり旗により啓発を行う。</p> <p>【実施後の実績】 県民税の活用についてホームページに掲載。</p> <p>【今後の見込】 竹破碎機の利用にあたり「県民税の職」を貸し出し、実施箇所に設置することで県民税事業であることを周知する。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	津市
-----	----

事業名	竹林整備支援事業
-----	----------

7. 写真



写真1
平成30年7月4日納品



写真2
ウッドチップパー-KCM125DXA



写真3
使用状況



写真4
使用状況



写真5
破碎状況



写真6
竹粉

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
2	基本	津市森林環境教育事業
事業費	488,160 円(うち交付金)	488,160 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的

夏休み森と緑の親子塾 (美杉町上多気 木材加工処理施設)
 木のぬくもりや、木の良さを知ってもらうため、市内在住・在学の小学生と保護者を対象に「夏休み森と緑の親子塾」を開催し、森林や木材について学び、ふれあう場を提供する。
 まるごと林業体験 (美杉町石名原ほか)
 津市に在住・在勤・在学の18歳以上方を対象に、普段なかなか身近に感じることでできない森林のはたらきや林業という仕事を、現場での体験を通して正しく理解してもらい、自らが進んで森林環境教育に取り組める人材を育てていくことを目的に開催します。

2. 事業実績概要

- 【事業内容】**
 夏休み森と緑の親子塾
 木工体験(プランター・本立て等)、林業体験(丸太の鋸切・丸太皮むきなど)
 まるごと林業体験
 間伐現場見学(高性能林業機械見学)・林業施設見学(製材工場や原木市場など見学)
- 【実施主体 (補助事業は補助事業実施主体)】**
 津市
- 【補助率等】**
 補助事業ではないので該当しない。
- 【箇所数】**
 夏休み森と緑の親子塾: 1箇所
 まるごと林業体験: 1箇所
- 【事業量】**
 夏休み森と緑の親子塾: 1回
 まるごと林業体験: 1回
- 【事業実施期間】**
 夏休み森と緑の親子塾: 平成30年6月25日～平成30年8月5日(募集期間含む)
 まるごと林業体験: 平成30年9月14日～平成30年11月17日(募集期間含む)
- 【受益者、参加者、利用者数等】**
 夏休み森と緑の親子塾: 親子18組54名
 まるごと林業体験: 15名

3. 有効性

- 【実施箇所の選定理由】**
 夏休み森と緑の親子塾: 森林や林業をより身近に感じてもらうながら、森林環境教育を促進させる体験活動型のイベントの開催場所としては、林業が盛んな美杉地域が適切な場所であり、中でも道の駅周辺は利便性に優れている。
 まるごと林業体験: 実際に林業の作業が行われている地域の中で、今回の事業内容を考慮し、集合場所や施設見学が可能な施設や林業現場までの移動時間等を勘案し選定。
- 【実施した効果】**
 夏休み森と緑の親子塾: 木工細工等により、直接木に触れることで、木のぬくもりと物を作る楽しさを認識していただき、森林のはたらきについて学ぶことで親子で森林に対する理解を深めることができた。森林環境教育として、森を育む人としてのきかけづくりの場を提供することができた。
 まるごと林業体験: 実際の作業現場や施設を見学することで参加者が林業に対する理解を深め、循環可能な資源である木材を利用する意義を知るとともに、森林の持つ公益的機能の理解が深まり森を育む人づくりに寄与することができた。
- 【実施箇所の今後の管理体制】**
 体験学習の開催であり、該当しない。
- 【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】**
 体験学習の開催であり該当しない。※平成26年度から毎年実施しており、今後も継続して開催したい。

【実施内容に対する住民等の反応】
 夏休み森と緑の親子塾: 木工細工では物を作る楽しさと木への関心を高めることができた。丸太切りや木の皮むき体験では生の木に触れ、作業の大変さやうまくできたときの面白さを驚きや興味を持って体験してもらうことができた。また【森林のはたらき】についてのパネル展示や講習で森林多面的機能について関心を持っていただくことができた。
 まるごと林業体験: 機械化された現代林業の作業の様子や目前での伐採作業に大いに興味を持ってもらうことができた。製材工場の見学では原木丸太の皮むきや製材の作業工程を見学し、原木市場では広大な土場に並んだA材B材を見ることで、森林の循環に関する理解と関心を持っていただくことができた。 4-7

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
2	基本	津市森林環境教育事業
事業費	488,160 円(うち交付金	488,160 円 うち基金活用 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。 事業は委託により実施。</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林や林業をより身近に感じてもらいながら、森林環境教育を促進させるには、木工細工や林業体験などの体験活動型のイベントをすることが効果的なため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 夏休み森と緑の親子塾：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約 落札率 97.20% まると林業体験：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約 落札率 97.92%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 夏休み森と緑の親子塾：地域の実情に精通しており、森林・林業に関する経験や知識が豊富で、木材加工にも技術的な指導などにも優れている会員が多く所属する団体であるため。 まると林業体験：津市競争入札参加資格者名簿において森林に関する希望を出している者のうち、認定林業事業体である2者</p> <p>【事業費の積算根拠】 夏休み森と緑の親子塾：木工細工及び森林教室に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。 まると林業体験：林業機械操作及び木工細工に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 夏休み森と緑の親子塾：親子18組54名、まると林業体験：15名 参加申し込みが必要なイベントであり参加者の把握が可能である。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 体験学習の開催であり、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 体験学習の開催であり、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。 津市HPアドレス：http://www.info.city.tsu.mie.jp/www/index.html</p> <p>【実施中の実績】 開催中は会場の壁面に横断幕を掲げるとともに幟等を設置し、県民税の事業として開催されていることを周知。</p> <p>【実施後の実績】 当日の開催状況をホームページに掲載している。</p> <p>【今後の見込】 今後に関しても継続的に森林教室を継続して開催することで、毎年のイベントとして市民の方々への定着を図るとともに、いろいろな林業に関する体験ができるよう事業内容を考案し実施したい。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	津市
-----	----

事業名	津市森林環境教育事業
-----	------------

7. 写真



写真1

H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
(木材加工施設 集合写真)



写真4

H30.11.17 「まるごと林業体験」
(白山庁舎 集合写真)



写真2

H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
(パネル展示、説明)



写真5

H30.11.17 「まるごと林業体験」
(伐採搬出現場見学 美杉町石名原)



写真3

H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
(丸太切り体験)

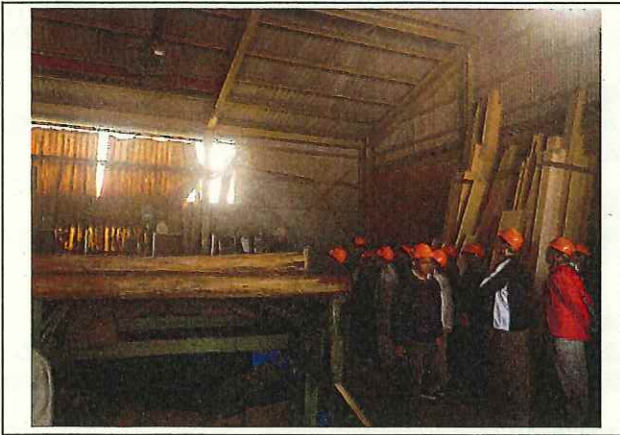


写真6

H30.11.17 「まるごと林業体験」
(製材工場見学 美杉町丹生俣)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
3	基本	美里水源の森整備事業
事業費	9,529,000 円(うち交付金	9,529,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	美里水源の森の水源涵養林等活かして、子どもたちが自然を体験できる場を造成し、自然や環境保全を学べる場として活用し、この森を核として緑と水と文化に抱かれた心育む美しい里づくりを進める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 美里水源の森に里山の自然を再生し、散策道などを整備し、自然に親しむ市民の憩いの場、青少年の自然・環境体験学習の場として積極的に活用していきます。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 長野川流域環境保全協議会(美里総合支所 地域振興課)</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所 三重県津市美里町南長野字栃谷地内 8.8ha</p> <p>【事業量】 散策道・進入路整備(柵・横断側溝)、附帯設備整備(トイレ 木造39.33㎡)、看板設置、体験学習等の開催(1回)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 企業の森の参加者と地元住民の植樹を通じての交流会約200名 地元ボランティアと協議会並びに企業と一緒に東屋を建設150人</p>

3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 美里水源の森は、津市総合計画後期基本計画に位置付けられており、当該森林を水源かん養機能を保全しつつ住民に安らぎを与える憩いの場・交流の場、そして子育ての場として整備に向けた取組を進めるものです。</p> <p>【実施した効果】 大工さんが講師になり、東屋が水源の森の木で造作「木の恵み」について話をされ、参加者全員で東屋を建設し、木の魅力を伝えることができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 長野川流域環境保全協議会(美里総合支所 地域振興課)が管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林インストラクターを活用し、水源涵養に資することを含めて、子供たちが自発的に水の大切さ、いわゆる森の大切さなどを体験し、学んでいくことで、子供が健やかに育つ場「子育ての場」となるよう活用に向けていきます。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 平成29年度に小中学校統合された義務教育学校「みさとの丘学園」の学習活動への活用等がされるため、早期完成が望まれていた。 また、地域の誇れる財産として整備していることに、地域住民から理解を得ている。</p>
---------------	---

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
3	基本	美里水源の森整備事業
事業費	9,529,000 円(うち交付金	9,529,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 トイレ棟建設 津市からの負担金により、協議会が外注して工事(費)として 着手 看板設置 津市からの負担金により、協議会が設置 イベント 津市からの負担金により、協議会が運営し、イベント参加者の負担(金)もあり 東屋 津市からの負担金を活用し、工事等は協議会が自ら実施 長野川流域環境保全協議会への負担金</p> <p>【実施方法の選定理由】 4つの取り組みすべてにおいて、協議会が主体となって行う事業を、市が「負担金」として財政支援を行い、協議会は、主にそれを活用する取り組みを実施することで、水源の森整備を進めてきた経過があり、平成30年度においても実施した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 トイレ棟建設分 入札による 落札率92% 看板設置 見積合わせによる 落札率98.3%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 トイレ棟建設分 契約相手方は、津市契約規則に準じて選定しています。 看板設置 契約相手方は、津市契約規則に準じて選定しています。</p> <p>【事業費の積算根拠】 トイレ棟の建設分 設計業者の設計積算 看板設置 設置看板の仕様を協議会で決定した イベント イベント内容を協議会で決定し、事業費を算出 東屋 協議会で設計等を行い、その必要経費を算出</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 企業の森の参加者と地元住民の植樹を通じての交流会約200名、地元ボランティアと協議会並びに企業と一緒に東屋を建設150人、長野川流域環境保全協議会が主催者であることから、事前打ち合わせを行い当日の参加者を把握。 自由利用者は把握していない。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人の所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 行政財産であるため転用、目的外使用は、許可しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 工事・地域だより:美里通信(市広報同時配布物)にて周知済</p> <p>【実施中の実績】 工事・工事個所内に掲示 イベント・地元自治会長から地域住民に周知、参加募集</p> <p>【実施後の実績】 地域だより:美里通信(市広報同時配布物)にて、30年度の実績を掲載</p> <p>【今後の見込】 里山体験学習等の実施を市内小中学校へPRする。 また、長野流域環境保全協議会を中心に、森の学校等のイベントを企画し、参加者を募集する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 津市

事業名 美里水源の森整備事業

7. 写真

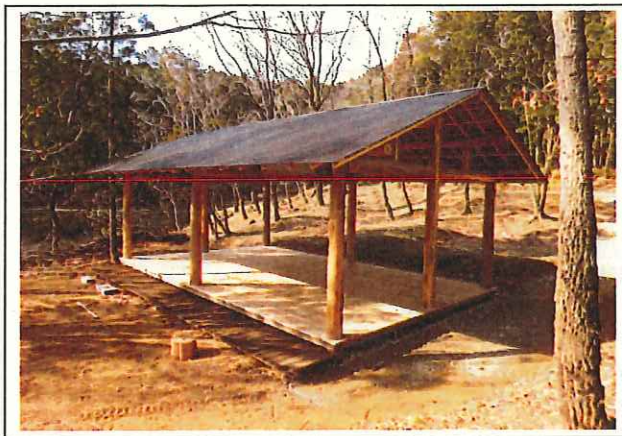


写真1
東屋



写真2
トイレ及びスロープ



写真3
東屋作成



写真4
植林作業



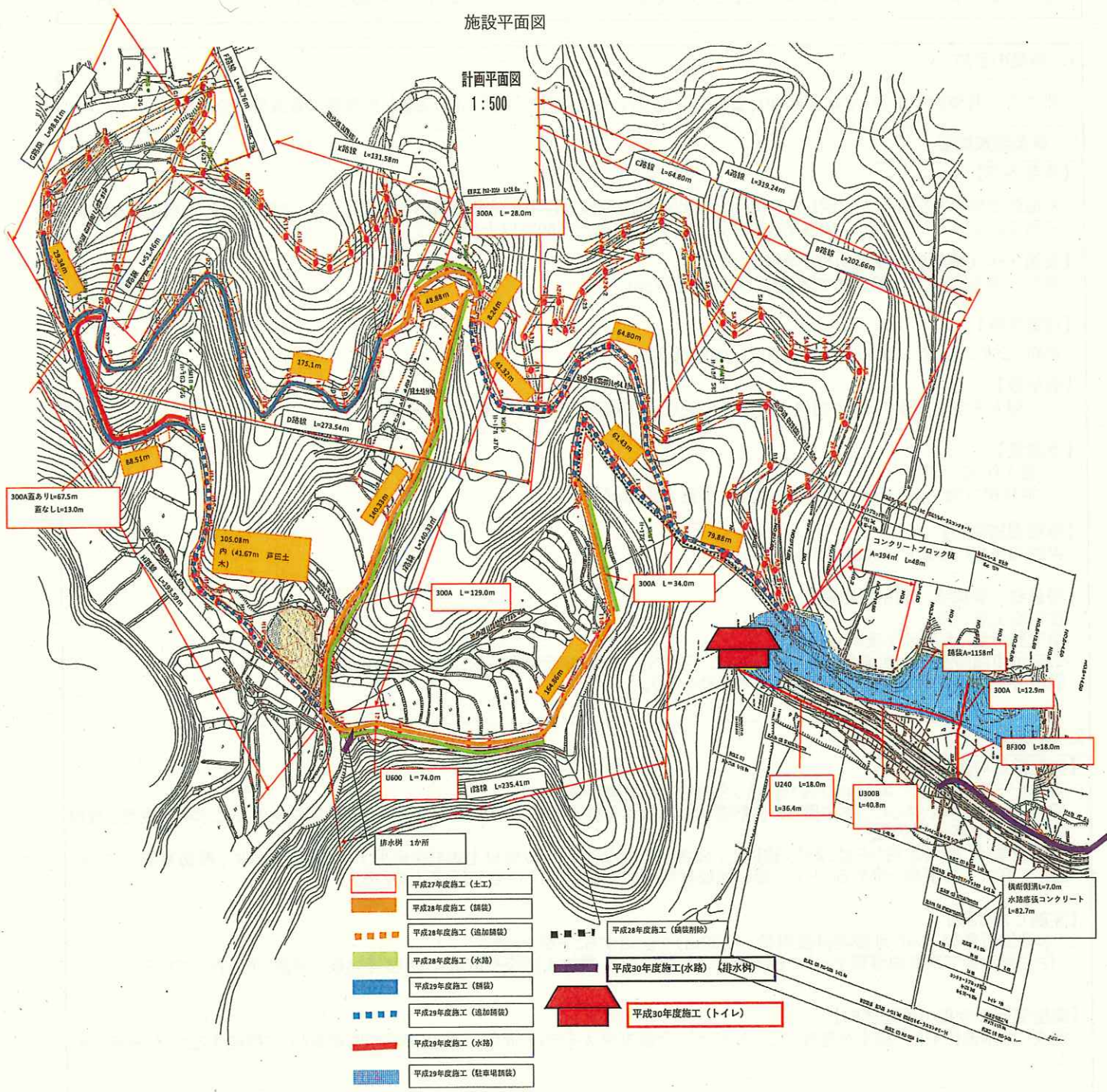
写真5
クラフト作り



写真6
階段用丸太制作

施設平面図

計画平面図
1:500



- 平成27年度施工(土工)
- 平成28年度施工(舗装)
- 平成28年度施工(追加舗装)
- 平成28年度施工(水路)
- 平成29年度施工(舗装)
- 平成29年度施工(追加舗装)
- 平成29年度施工(水路)
- 平成29年度施工(駐車場舗装)

- 平成28年度施工(舗装削除)
- 平成30年度施工(水路) 排水溝
- ↑ 平成30年度施工(トイレ)

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
4	基本	津市木材利用促進事業	
事業費	1,500,000 円(うち交付金	1,500,000 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的
住宅や公共施設の木造・木質化を図り、それをきっかけにして、木造・木質化による癒し効果等の普及啓発を図る。

2. 事業実績概要
【事業内容】
 木造住宅等の主要部材を一定以上利用した公共的施設や個人住宅を対象に補助金を交付する。主要部材に地域産材を個人住宅で12立方メートル以上、公共的施設で20立方メートルまたは60%以上使用していること。
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 津市（地域産材又は県産材で木造住宅を建てる市民）
【補助率等】
 定額(公共的施設:500,000円、個人住宅:300,000円)
【箇所数】
 個人住宅 5棟(一志町田尻、美杉町上多気、久居藤ヶ丘、久居中町、久居元町)
【事業量】
 個人住宅 5棟
 木材使用量 87.15m³ 内、地域産材使用量 68.08m³
【事業実施期間】
 平成30年4月2日から平成31年3月29日
【受益者、参加者、利用者数等】
 住宅施工者 5者
 住宅展示会 令和元年度前半予定
 ※交付申請時期が年度後半に集中したため、年度内に完成し展示会を行うことができなかった。
 展示会では旗の掲揚等による県民税のPR活動を行う。

3. 有効性
【実施箇所の選定理由】
 森林を守るためには、多くの市民の皆さんが木材を使う必要がある。
 近年、若い世帯を中心に、体に優しい自然素材を選択する傾向があることから、構造材や床材・壁材を中心に木材を使用を検討する事例が見られている。
 当該事業は、個人住宅ならば12m³/棟以上、公共的施設ならば20m³/棟以上木材を使用する施主を対象に、補助事業として実施しており、この事業を進めることで一層の地域材利用拡大を図ることができると考えている。
【実施した効果】
 木材使用量87.15m³(地域産材使用量 68.08m³)を使用することができた。
 住宅展示会で県民税事業であることをチラシや旗でのPR、農林水産祭や広報により啓発効果を達成したと考えている。
【実施箇所の今後の管理体制】
 完成した木造住宅は、施主が管理することとなるが、今後30年から50年近く、二酸化炭素の貯蔵庫として機能することが期待できる。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 県民税の見直しにより来年度から県民税事業から除外されることになった。
 林業振興における川下対策として本事業は重要な事業の1つと考えているため、一般財源により事業を継続していく。
【実施内容に対する住民等の反応】
 木に触れることや木材から漂う薫りによって感じる、ぬくもりや安心感といった木造住宅の魅力と、最新の技術を導入することで高い断熱性や気密性を保持できる等、木造住宅でも他工法の住宅と変わらない点を理解してもらえた。
 同時に、森林を守るために木材を使う必要性を、十分理解してもらえた。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
4	基本	津市木材利用促進事業	
事業費	1,500,000 円(うち交付金	1,500,000 円	うち基金活用 円)
4. 効率性			
【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 補助事業として、市広報や市ホームページ上で、事業要領や申請書様式を提示して実施。 補助金を希望する者が直接申請する。			
【実施方法の選定理由】 補助事業として、市広報や市ホームページ上で、事業要領や申請書様式を提示して実施。 補助金を希望する者が直接申請する。			
【契約方法と落札率または補助率等】 公募につき、該当なし			
【契約相手方の選定理由】 公募につき、該当なし			
【事業費の積算根拠】 補助金額は、炭素排出抑制効果等、費用対効果を考慮して決定。			
5. 公益性(波及度)			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 住宅施工者 5者 補助金申請書を提出 住宅展示会参加者は、受付で氏名・住所を記入			
【管理責任者(森林所有者)への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 住宅所有者が適切に管理を行う。(協定等は結んでいない)			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 補助事業として、市広報4月1日号、12月1日号及び市ホームページ上で、事業要領や申請書様式を提示して実施。			
【実施中の実績】 建設中のはのぼり旗を建設現場に設置し、みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることを広く市民へ周知。 来訪者に、当該事業が税事業を活用していることを周知するため、津市独自のパンフレットを配布した。			
【実施後の実績】 津市のHPにより事業の周知を実施。			
【今後の見込】 市内の建築士会や施工業者へも周知を図りたい。 津市は、子ども達に対し林業教室等を税事業で実施している。保護者も同伴しており、森林教育と住宅建築を結んで教育へ繋げていきたい。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	津市
-----	----

事業名	津市木材利用促進事業
-----	------------

7. 写真



写真1
久居中町 個人住宅 上棟(外観)



写真2
美杉町上多気 個人住宅 上棟(外観)

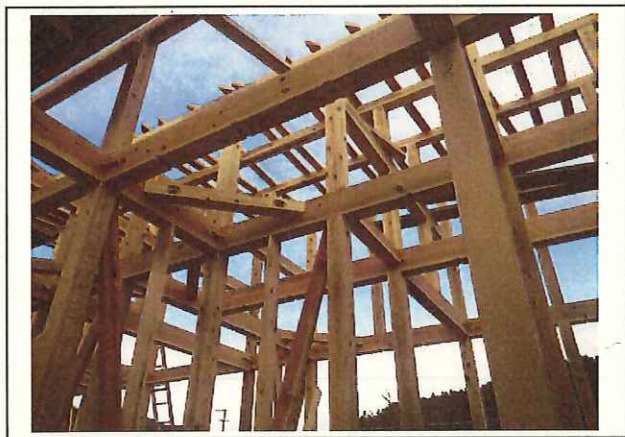


写真3
美杉町上多気 個人住宅 上棟(内観)



写真4
久居藤ヶ丘 個人住宅 上棟(内観)

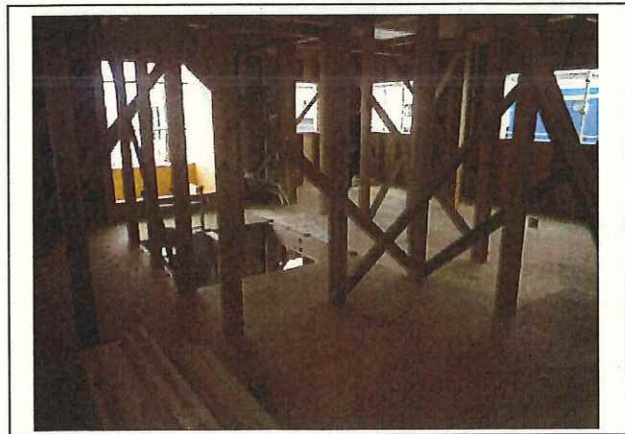


写真5
久居元町 個人住宅 上棟(内観)

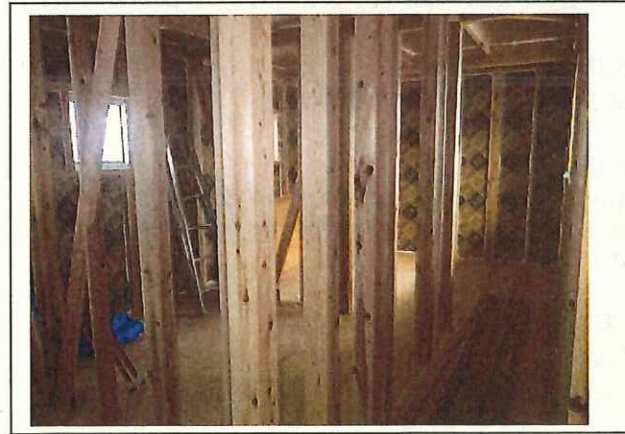


写真6
一志町田尻 個人住宅 上棟(内観)

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
5	基本	木質バイオマス利用促進事業
事業費	42,475,900 円(うち交付金	42,433,300 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>間伐等で発生する林地残材等について、再生可能エネルギーである木質バイオマスエネルギー利用を図るため、採算の合いにくい林地からの搬出・運搬に関し、間伐施業地から山土場、山土場からチップ工場への搬出経費を支援することで、森林所有者・林業事業体への意識啓発、取組拡大、利用量の増加を図る。また、林地残材の減少を図り、河川等への流出を防ぐことで流木を出さない森林づくりを進める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 間伐施業地から山土場まで、又は、山土場からチップ工場までの搬出経費の一部を支援する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 認定事業体（津市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者13業者）</p> <p>【補助率等】 定額（間伐施業地から山土場まで：上限6,400円/m³、山土場からチップ工場まで：上限1,200円/m³）</p> <p>【箇所数】 森林組合 津市美杉町川上地内ほか 林業事業体 津市美杉町八手俣地内 活動団体 津市美杉町上多気地内ほか</p> <p>【事業量】 林地残材搬出材積 5,598.672m³ 森林組合 4,215.120m³ 林業事業体 1,200.000m³ 活動団体 183.552m³</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 流域居住者（不特定）、林業事業体3者、バイオマスエネルギー利用者（不特定）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 林地残材が多く発生している間伐実施箇所を対象に搬出を支援することで、効率的に未利用材の利用が進むと考えられるため。</p> <p>【実施した効果】 林地残材の減少により河川への流出危険性が減少し、減災効果が得られた。また、森林所有者・林業事業体への意識啓発、取組拡大が進み、バイオマス発電燃料として未利用材の有効活用が進んだ。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者による管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林の持つ多面的機能が発揮されるよう森林として維持し、また、事業結果のホームページ掲載等、啓発材料として活用する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 土砂崩れ等が発生した際の木材流出量が軽減できることにより、流域住民の安心感が増加した。木材を有効利用するというエコ活動としての認識が向上した。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
5	基本	木質バイオマス利用促進事業	
事業費	42,475,900 円(うち交付金	42,433,300 円	うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 搬出経費に対する補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 災害時の林地残材に対する不安を軽減してほしいという地域住民の声と木質バイオマス発電燃料の供給促進が、林地残材の搬出という行為でマッチングしたため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 定額助成(間伐施業地→山土場6,400円/m³、山土場→チップ工場1,200円/m³) 補助額の合計が搬出に係る経費から林地残材の売却額を控除して得た額を超える場合は、当該額を限度額としている。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 申請方式であり、該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 定額助成(間伐施業地→山土場6,400円/m³、山土場→チップ工場1,200円/m³) 補助額の合計が搬出に係る経費から林地残材の売却額を控除して得た額を超える場合は、当該額を限度額としている。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 林業事業者3者については、補助金交付申請書で確認。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 当事業での協定は無いが、間伐実施箇所の多くは転用等の規制がある。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 県民税の活用についてホームページに掲載</p> <p>【実施中の実績】 事業実施箇所については、税ののぼり旗により啓発を行う。</p> <p>【実施後の実績】 県民税の活用についてホームページに掲載</p> <p>【今後の見込】 森林の多面的機能の向上が見込まれる。今後も継続して実施していきたい。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	津市
-----	----

事業名	木質バイオマス利用促進事業
-----	---------------

7. 写真



写真1
林地残材除去後の森林



写真2
木質バイオマス原料の集積状況(山土場)



写真3
木質バイオマス原料の集積状況(山土場)



写真4
チップ工場(納入先)での重量計測



写真5
チップ工場(納入先)への搬入状況



写真6
チップ工場(納入先)への運搬状況

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
6	基本	津市公共施設木質化事業	
事業費	3,888,000 円(うち交付金	3,578,000 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的	木の薫る空間づくりを通じて、森林を支える社会づくりを目指すため、公共空間における施設(ウッドデッキ)の木質化を地域産材で行う。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市民の憩いの場やイベントの会場でもある、津市まん中広場に木質のウッドデッキ及び看板を地域産材を利用し設置する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 津市(商業振興労政課)</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないので、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2箇所(ウッドデッキ、看板)</p> <p>【事業量】 津市まん中広場 ① ウッドデッキ(円形デッキ) 61.45㎡ 地域産材(ひのき)使用 ※防腐加工 ② 看板一式 地域産材(スギ)使用 ※防腐加工</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 津市まん中広場利用者及び通行人等 (H30年度津市まん中広場利用者数 約 3,000人 ※会場のイベント等による使用申請における利用者数を集計)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 当該広場の利用者や通行人等に憩いの場・情報交換の場として利用いただくことで、より多くの人に気のぬくもりや木の良さを知ってもらうため。</p> <p>【実施した効果】 当該広場の雰囲気大幅に向上したことで、イベント開催及び通行人等の休憩場所・情報交換の場として、これまで以上に多くの方々の利用が見込まれる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 津市まん中広場の管理を業務委託している、津市NPOサポートセンターにより管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 本交付金を活用し当該広場がリニューアルされたことを周知し、イベント開催及び通行人等の休憩場所・情報交換の場として、これまで以上に多くの方々に利用していただけるよう取組みます。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 広場の雰囲気が大幅に向上し、また綺麗で安全なものとなり、たいへん喜んでいただいている。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
6	基本	津市公共施設木質化事業
事業費	3,888,000 円(うち交付金	3,578,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】</p> <p>①ウッドデッキ:一般競争入札により業者を決定し、整備した。 ②看板 :見積合わせ(3者)により業者を決定し、整備した。 上記①②はともに、県産木材を使用するよう指定した。</p> <p>【実施方法の選定理由】</p> <p>市の関係規定による</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】</p> <p>① ウッドデッキ:一般競争入札 落札率86.1% ② 看板 :随意契約 落札率 100%</p> <p>【契約相手方の選定理由】</p> <p>① ウッドデッキ:一般競争入札の結果による。 ② 看板 :見積合わせの結果による。</p> <p>【事業費の積算根拠】</p> <p>① ウッドデッキ:設計単価の見積による事前徴取を行い、工事設計書を作成。 ② 看板 :複数の業者による見積書の徴取による。</p>	
5. 公益性（波及度）	
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】</p> <p>施設利用者及びその他広場利用者 施設利用者:約3,000人(イベント主催者等及び参加(来場)者等) 人数把握方法:施設利用申請時に記載する人数で把握、自由利用については把握していない。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】</p> <p>個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】</p> <p>本市所有の備品購入として、管理者により適切に管理を行う。</p>	
6. 周知実績と今後の周知	
<p>【実施前の実績】</p> <p>県民税の活用についてホームページに掲載</p> <p>【実施中の実績】</p> <p>施工期間中は、津市まん中広場が使用できないことから、「実施中」に該当する期間がない。</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>津市まん中広場で開催されるイベント(高虎楽座)のチラシにおいて、「みえ森と緑の県民税」の使用を活用し、当該広場のリニューアルを周知した。</p> <p>【今後の見込】</p> <p>整備された施設について、財源が「みえ森と緑の県民税」であることを、ロゴ等により表示し市民へ周知します。</p>	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 津市

事業名 津市公共施設木質化事業

7. 写真



写真1
ウッドデッキ①



写真2
看板①



写真3
ウッドデッキ②



写真4
看板②

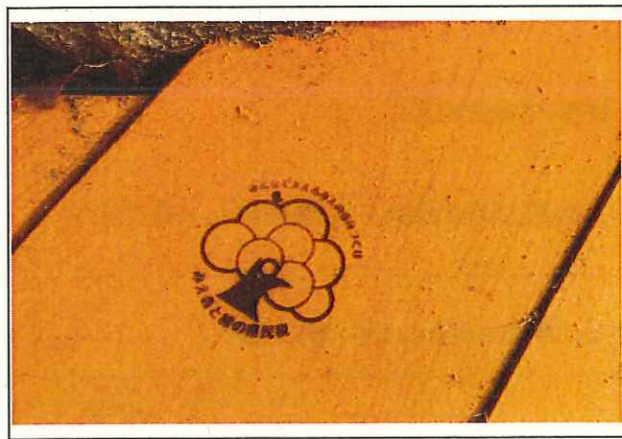


写真5
ロゴ・マーク(ウッドデッキ)



写真6
ロゴ・マーク(看板)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	津市
------	--------------------	-----	----

番号	区分	事業名
7	基本	ミツマタ群生を活かした地域づくり事業
事業費	6,924,540 円(うち交付金	6,924,540 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的

春に美しい花を咲かせるだけでなく和紙の材料となり林産物でもある「ミツマタ」が群生する森林を活用して、市民や観光客に森林が持つ多面的機能や人工林本来の姿等をPRするとともに森林に触れ合う機会を提供する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

展望デッキ設置(約23㎡)
道案内、PR、学習、説明看板の設置
PR、学習パンフレット等の作成

【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】

津市(美杉総合支所 地域振興課)

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

展望デッキ設置 1箇所 津市美杉町石名原地内(森林内)
道案内等看板 38基 津市美杉町石名原、奥津地内
PR、学習用看板 6箇所 津市美杉町地内(町内主要箇所及び森林内)

【事業量】

展望デッキ 1基約23㎡ 道案内等看板38基 PR、学習、説明看板6基

【事業実施期間】

平成30年4月2日～平成31年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

地元住民200人 観光客1,000人(年間)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

ミツマタ群生地が一望できる箇所に、展望デッキを設置。
各種案内等看板については、多くの来訪者、地域住民にPRできる箇所を選定。

【実施した効果】

市民や観光客に森林が持つ多面的機能や人工林本来の姿等をPRするとともに森林に触れ合う機会を提供することにより、森林を身近なものにするるとともに、森林保全の重要性等について認識を深めることができる。

【実施箇所の今後の管理体制】

対象施設は市が管理を行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

ウォーキングやサイクリングによるミツマタ群生地への誘客を図るとともに、ミツマタが和紙の材料であることから、和紙漉き体験等を実施し、組み合わせることにより年間を通じた来訪者の確保と増大を図り、森林に触れ合える場所として活用していく。

【実施内容に対する住民等の反応】

地元住民や来訪者は、施設の整備により森林に触れ合う機会を得て、ミツマタ群生地の森を堪能している。
また、多くの来訪者があることで、地元住民の地域資源を活用した地域づくりへの関心が高まっている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	津市
番号	区分	事業名	
7	基本	ミツマタ群生を活かした地域づくり事業	
事業費	6,924,540 円(うち交付金	6,924,540 円	うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負、業務委託等。</p> <p>【実施方法の選定理由】 市の関係規定による。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札、見積合わせ等による。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 市の関係規定による。</p> <p>【事業費の積算根拠】 市の関係規定による。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 地元住民200人 観光客1,000人(年間)は、昨年度の実績等から推計。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市において管理を行う。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市において管理を行うため、転用、目的外使用は行いません。</p>
-------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地元自治会を通じ周知。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板等で県民税事業であることを周知。</p> <p>【実施後の実績】 事業で整備した看板、ポスター、チラシにより、広く住民、観光客に周知。 ホームページと広報誌により県民税事業として紹介。</p> <p>【今後の見込】 ウォーキングやサイクリングによるミツマタ群生地への誘客を図るとともに、ミツマタが和紙の材料であることから、和紙漉き体験等を実施し、組み合わせることにより年間を通じた来訪者の確保と増大を図っていく。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 津市

事業名 ミツマタ群生を活かした地域づくり事業

7. 写真



写真1

展望デッキ 全景



写真2

展望デッキ 群生地側から



写真3

現地説明用看板、県民税周知看板



写真4

現地学習用看板



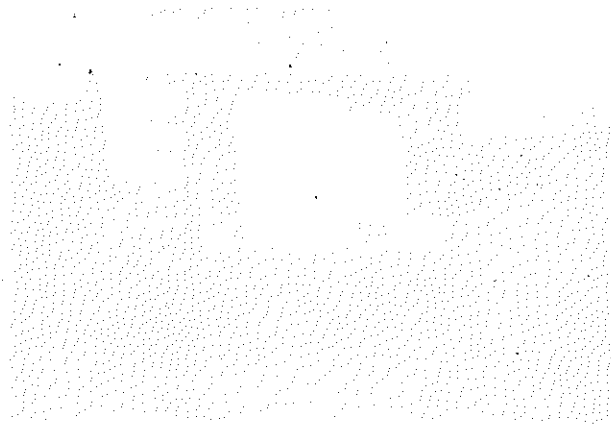
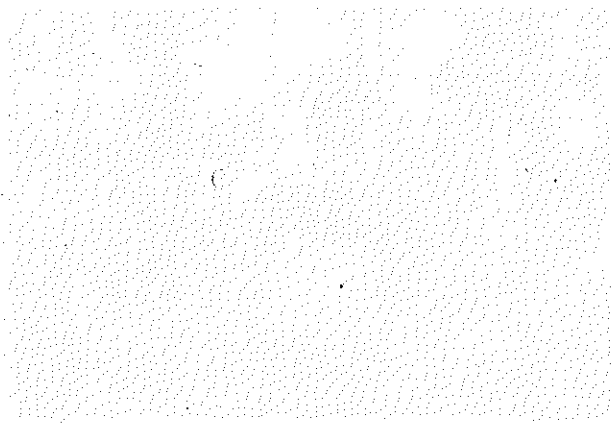
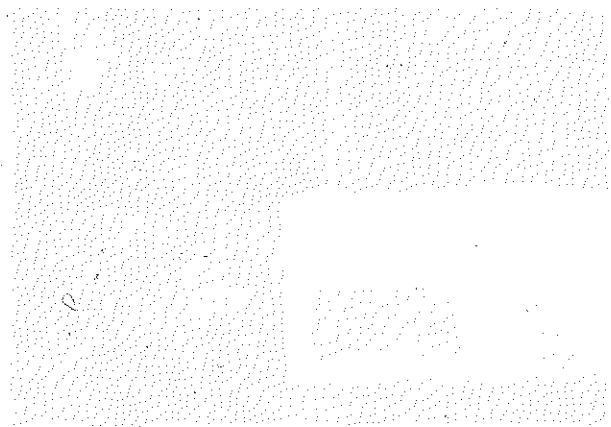
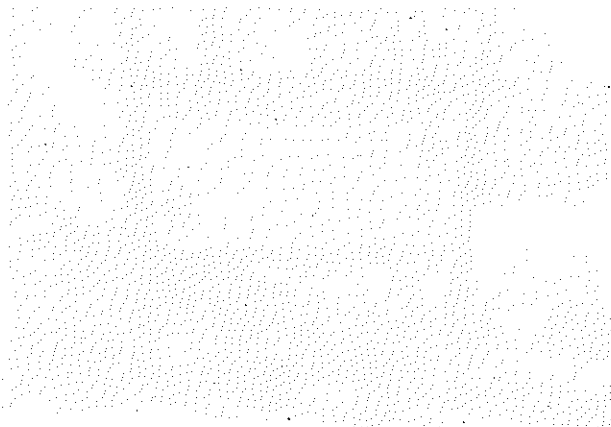
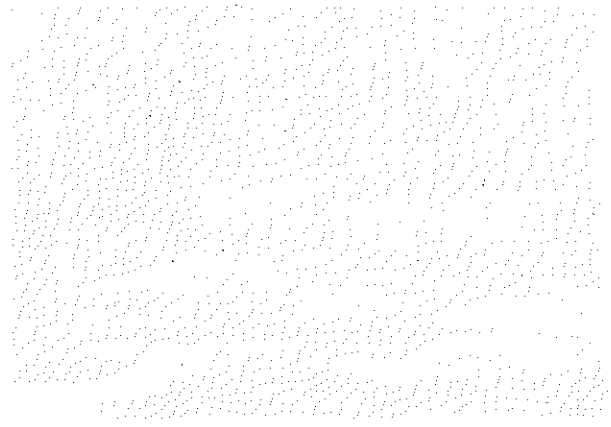
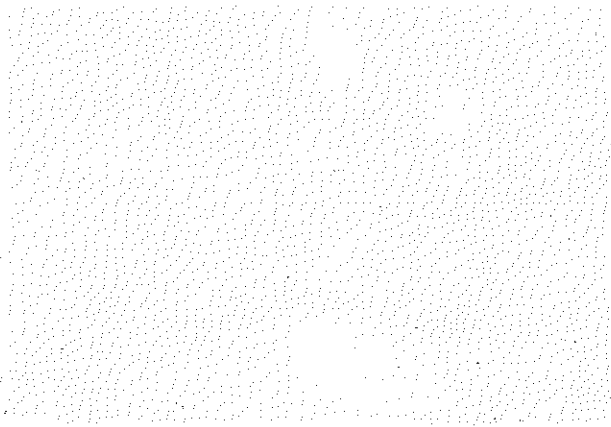
写真5

案内看板① 竹原、八知、石名原地内(計3基)



写真6

注意書き用立て札



松阪農林事務所管内

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	松阪市
-----	-----

当年度交付金額	58,168,000	円 (ほか、市町基金活用	0	円)
---------	------------	--------------	---	----

	事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1	里山の森林安全安心対策事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	37,783,740	37,783,740	0
2	森林環境学習事業	3. 森を育む水づくり	2,893,320	2,893,320	0
3	都市公園整備事業	4. 木の薫る空間づくり	4,600,000	4,600,000	0
4	ベルファーム木造トイレ整備事業	4. 木の薫る空間づくり	1,461,300	1,461,300	0
5	保育園管理運営事業	3. 森を育む人づくり	11,429,640	11,429,640	0
	合計		58,168,000	58,168,000	0

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	松阪市
番号	区分	事業名	
1	基本	里山の森林安全安心対策事業	
事業費	37,838,880 円(うち交付金 37,783,740円 うち基金活用 0円)		

1. 事業の目的
集落や公共施設周辺の森林で、森林の持つ公益的機能が発揮されない状態にある森林や特定水源地域に指定された環境林を対象に、森林所有者や地域の自主防災組織等と連携し、集落の安全と安心を確保するとともに水源涵養機能の向上を図ることを目的に森林整備を行う。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 該当地域において、関係者と連携して現地調査を行い、森林の境界の確認・測量及び間伐等の森林整備を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 森林整備箇所：8箇所（私有林他）、支障木伐採箇所：20箇所</p> <p>【事業量】 森林整備箇所：8箇所(39.69ha)、支障木伐採箇所：20箇所(517本)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年8月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって安全と安心が確保される戸数48戸、市道、県道</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 自主防災組織や自治会長等と協働して、緊急性・公共性の高い箇所から効率的に実施した。</p> <p>【実施した効果】 集落周辺の森林が整備されたことにより、地域住民の生活環境の向上や道路の安全性が確保された、また地域の自主防災組織や自治会長等と連携することにより、地域の里山を見直すきっかけとなり、継続的な取組ができた。特定水源地域に指定された森林が整備されたことにより水源涵養機能の向上が図れた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 所有者が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今度の活用計画】 事業地に看板を設置し、「みえ森と緑の県民税」を活用したことを周知することで、暮らしに身近な森林づくりの重要性を啓発する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 人家裏等、直接被害を及ぼす範囲を伐採し、さらに山側の間伐を行ったことで、森林が整備され、安全性が確保されたことにより、地域住民からは台風時等の心配が軽減され、喜んでいただいた。</p>

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	松阪市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	里山の森林安全安心対策事業
事業費	37,838,880円(うち交付金 37,783,740円 うち基金活用 0円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 委託することで実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 市と森林所有者及び認定林業事業体の3者において、将来にわたって「災害に強い森林づくり協定」を締結しているため。</p> <p>【事業費の積算根拠】 測量調査 約200万円、間伐39.69ha 約270万円、支障木伐採 約700万円</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 地域住民戸数48戸、市道、国道とし、被害等の影響を及ぼす範囲を保全対象としている。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 木材生産活動による維持が困難であるため、森林所有者から事業実施の同意を得て市が実施した。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林所有者との協定により、転用等を行わないように制限をかけている。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地域の住民や自治会長に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施後の実績】 実施地に看板を設置して、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【今後の見込】 より一層の周知に努める。（地域の掲示板等による周知やアンケート調査）</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
平成26年度からの継続事業。平成26年度～30年度の5ヵ年で46箇所を実施している。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	里山の森林安全安心対策事業
-----	---------------

7. 写真



写真1
森林整備(支障木伐採 着手前)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真2
森林整備(支障木伐採 写真1の完成)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真3
森林整備(支障木伐採 着手前)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真4
森林整備(支障木伐採 写真3の完成)
人家に樹木が倒れる恐れがある



写真5
森林整備(支障木伐採 遠景)
注意喚起及び啓発看板設置状況



写真6
森林整備(支障木伐採 近景)
注意喚起及び啓発看板設置状況

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	松阪市
番号	区分	事業名		
2	基本	森林環境学習事業		
事業費	2,893,320 円(うち交付金 2,893,320円 うち基金活用 0円)			

1. 事業の目的	市内の小学校の教室等を松阪地域の木材を使用して木質化し、児童を対象に森林の持つ機能や木材の特性についての「木育」を実施し、将来の森林の『担い手』を育成する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 松阪地域の木材を使用し、小学校の教室を木質化する。また、小学生を対象に森林環境保全や森林整備についての森林環境教育を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2箇所（松阪市立柿野小学校、松阪市立射和小学校）</p> <p>【事業量】 柿野小学校：1階廊下腰壁の木質化1箇所（延べ46m²）、射和小学校：1階玄関ホールまわりの木質化(延べ43m²)、森林環境教育</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月～平成31年1月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 松阪市立柿野小学校：3年生、4年生(児童数23名)、松阪市立射和小学校：4年生(児童数24名)とその保護者及び保育園関係者。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 小学校と連絡をとり森林環境学習についての目的などを説明し、積極的な学校から日程調整を進めている。</p> <p>【実施した効果】 児童達が、市産材で木質化された教室で学ぶことにより、木材とのふれあいが進む。また、森林環境学習を実施することにより、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 木質化については、小学校で維持管理を行っていく。また、森林環境学習については、施設等整備でなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林環境保全や森林整備についての森林環境教育を実施していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 対象児童にアンケートを実施し、高評価（興味や理解の深まり）を得ており、継続して実施していく。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	松阪市
番号	区分	事業名		
2	基本	森林環境学習事業		
事業費	2,893,320 円(うち交付金 2,893,320円 うち基金活用 0円)			
4. 効率性				
【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 委託				
【実施方法の選定理由】 委託することで、専門的見地から森林環境学習の重要性を認識したうえで、適切な教育を実施することができるため。				
【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約				
【契約相手方の選定理由】 森林・林業に携わる関係者による組織であり、森林・林業に精通し、また、普段から小学生を対象とした森林学習のイベントを開催するなど、適切な教育を実施することができるため。				
【事業費の積算根拠】 小学校2校の木質化 約134万円、森林環境学習 約103万円、その他諸経費				
5. 公益性(波及度)				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 松阪市立柿野小学校：3年生、4年生(児童数23名)、松阪市立射和小学校：4年生(児童数24名)とその保護者及び保育園関係者。				
【管理責任者(森林所有者)への対応】 個人が所有する森林等の整備でなく、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林環境学習であり、また公共施設の木質化であるため、転用等が想定されず、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 報道機関への資料提供により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。				
【実施中の実績】 のぼり旗により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。				
【実施後の実績】 閉会式等の際に、税を活用して実施したことを周知した。				
【今後の見込】 税を活用したこれまでの事業実績を他の小学校に紹介し理解を深めることで、積極的な取組を継続していく。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				
平成26年度より市内の36校で継続的に実施。平成26年度～30年度の5ヵ年で9校実施している。				

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	森林環境学習事業
-----	----------

7. 写真



写真1

森林環境学習(原木市場見学)柿野小学校

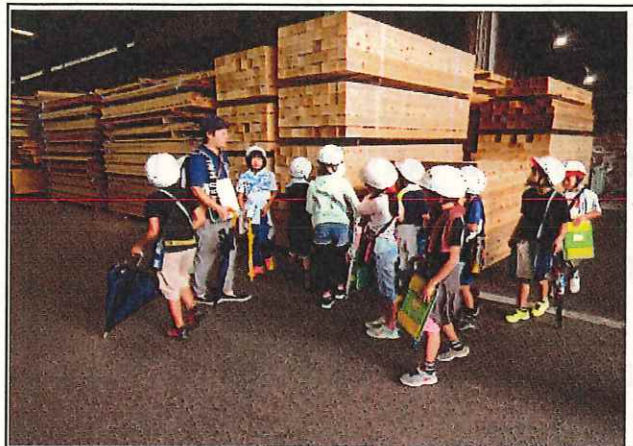


写真2

森林環境学習(製材工場見学)柿野小学校

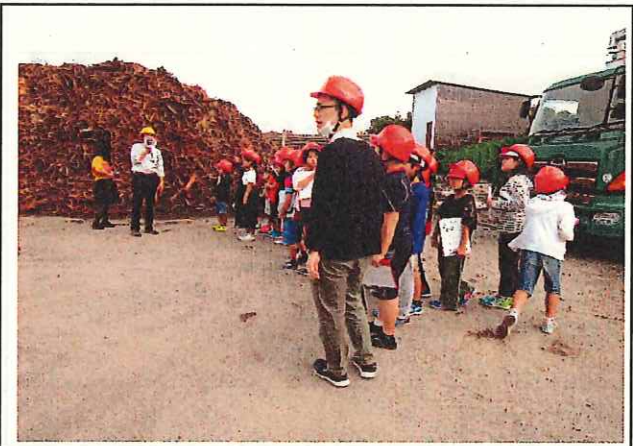


写真3

森林環境学習(バイオマス工場見学)射和小学校

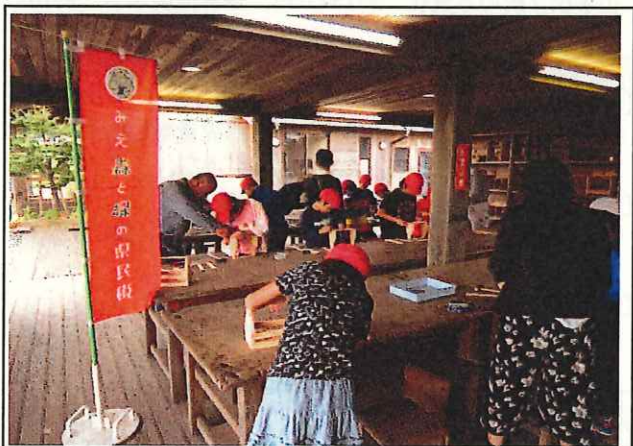


写真4

森林環境学習(木工教室)射和小学校



写真5

森林環境学習の事業の様子 柿野小学校

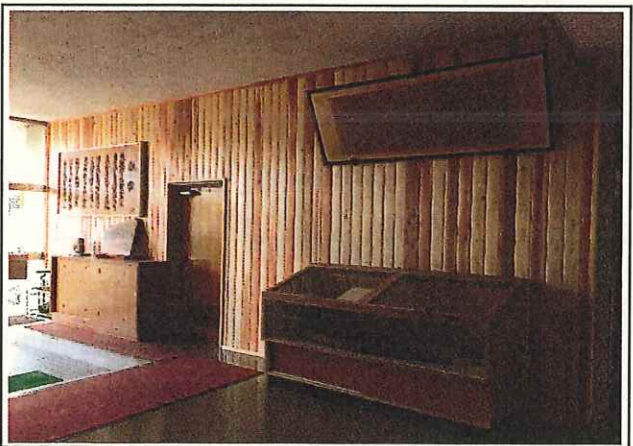


写真6

玄関ホールまわりの木質化 射和小学校

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	都市公園整備事業
事業費	4,639,680 円(うち交付金 4,600,000円 うち基金活用 0円)	

1. 事業の目的	公共空間である公園において、市産材の木材利用を促進し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 都市公園内の東屋及びベンチを市産材で木質化する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 4箇所（平成町4号公園、桜町2号公園、日丘町4号公園、田村町六才公園）</p> <p>【事業量】 東屋1棟、ベンチ7基</p> <p>【事業実施期間】 平成30年11月～平成31年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 平成町受益戸数792世帯、桜町受益戸数476世帯、日丘町受益戸数539世帯、田村町受益戸数777世帯</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 利用者の多い箇所から効果的に実施した。</p> <p>【実施した効果】 多くの市民に利用される公園において、市産材で東屋やベンチを建築することにより、市民が木材とふれあう機会が増え、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市において、点検の実施など維持管理を行っていく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 チラシ等の配布により、森林の大切さや緑の循環などの説明をし、意識を高める。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 地域住民にとって、東屋やベンチが整備されたことで、憩いの場所ができ喜ばれている。また、木材ならではの「温かみ」「親しみ」を感じているという反応が多く、今後も継続的に実施していきたい。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	都市公園整備事業
事業費	4,639,680 円(うち交付金 4,600,000円 うち基金活用 0円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負</p> <p>【実施方法の選定理由】 請負することで実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため。また、競争入札により経費の節減にも繋がる。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札落札率84.27%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 入札条件に適合した参加者により、一般競争入札を行い、落札した業者である。</p> <p>【事業費の積算根拠】 東屋1棟 約3.8百万、ベンチ7基 約1.2百万</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 公園があるそれぞれの町内において、自治会単位による世帯数を受益者としている。（平成町792世帯、桜町476世帯、日丘町539世帯、田村町777世帯）</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地域の住民や自治会長に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施中の実績】 のぼり旗により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施後の実績】 事業地に看板の設置やシールを貼付け、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【今後の見込】 今年度同様、住民や自治会長への説明や、のぼり旗、看板を設置して、より一層の周知を行っていく。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
平成26年度より市内の公園で継続的に実施しており、広く市民に木材とふれあう機会を提供している。平成26年度～30年度の5ヵ年で19箇所実施している。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	都市公園整備事業
-----	----------

7. 写真

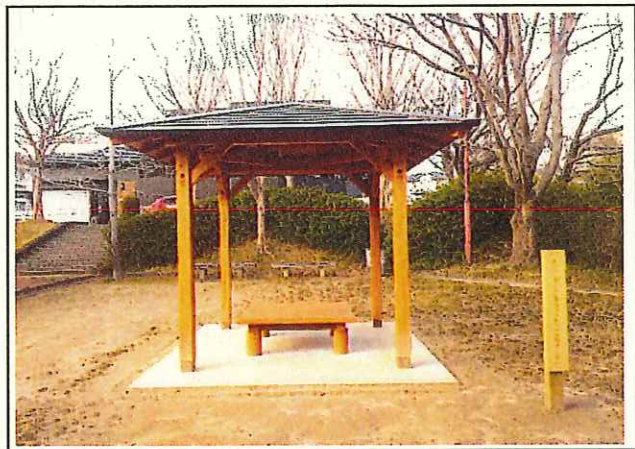


写真1
都市公園整備 東屋
平成町4号公園



写真2
都市公園整備 背付ベンチ
日丘町4号公園

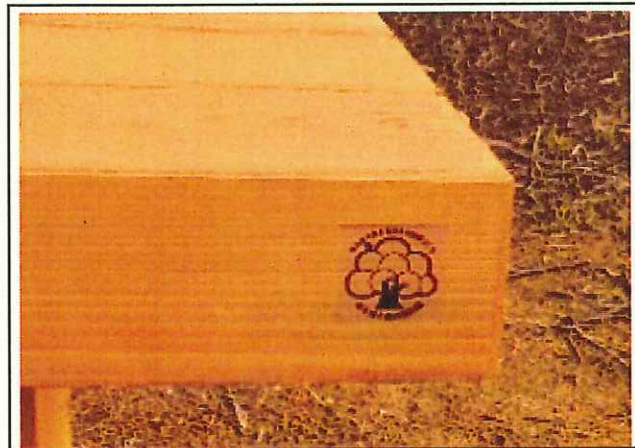


写真3
ロゴマーク入りシール貼付状況



写真4
PR標柱設置状況



写真5
施工中 啓発のぼり設置状況



写真6

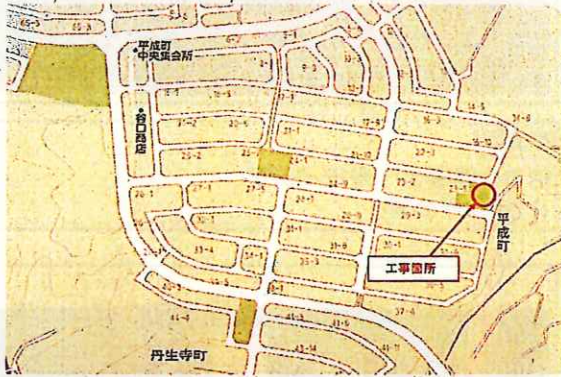
平成町自治会の皆様へ

公園整備工事に伴うお知らせとお願い

日頃から工事に、多大なご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
 このたび、松阪市発注の平成町4号公園外都市公園整備工事にあたり、平成町4号公園及び、下記期間で、公園整備を施工させていただきます。
 尚、工事期間中は騒音、振動等により皆様方に大変ご迷惑をおかけ致しますが、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

記

工事期間：平成31年 1月 10日～平成31年 2月 8日まで
 作業時間：8時30分～17時まで
 作業区画：下図による。
 作業内容：四阿設置工事
 施工業者：松山建設有有限会社【工事担当者：川口 誠】
 松阪市久保町133番地10 TEL：0598-26-9656
 発注者：松阪市 土木課公園係
 松阪市敷町1340番地1 TEL：0598-53-4167



※工事区域への立ち入りは、ご遠慮願います。

本工事で施工する四阿(東屋)はみえ森と緑の県民税を活用しています。詳しくは別紙をご覧ください。

みえ森と緑の県民税について

森林は土砂災害を防止したり、水を貯えるなど、私たちの暮らしに欠かせない大切な働きを持っています。しかし、近年は山村地域の過疎化や高齢化などによって荒れた森林が増加しており、集中豪雨の発生が増加していることも考え合わせると、山崩れなどの災害が発生する危険性が高まっています。

このようなことから、三重県では「災害に強い森林づくり」で県民全体で森林を支える社会づくりを進めるため、平成28年4月1日から「みえ森と緑の県民税」を導入されました。

みえ森と緑の県民税のしくみ(個人)

納める方	1月1日現在で三重県内に住所がある個人、家庭数等を有する個人(個人の県民税と併せて納税義務発生)
納める金額	年額1,000円
納税の方法	個人の県民税として、個人の市町村税とあわせて、市面に納税していただきます。
評価制度	みえ森と緑の県民税評価委員会を設置し、事業結果などについて評価検証などを行うとともに、結果は県民のみならず公表します。

- Q なぜ、余の県民が納めるのですか？
 A 森林は、木材生産だけでなく、水を貯える、地球温暖化を防ぐ、山崩れや洪水を防止するなど、私たちの生活に欠かせない大切な役割を果たしています。この森林からもたらされる恵みは全てが県民が受けていることから、県民のみならず幅広く負担していただくことにしました。
- Q 子どもからお年寄りまで全ての県民が納めるのですか？
 A 県民税均等割の超過課税ですので、個人県民税を納める方が対象になります。従って、個人県民税が非課税となる方(所得が無い未成年者や所得金額が一定の金額以下となる方など)には課税されません。
- Q どのように使われるのですか？
 A

① 土砂災害を防止する(防災づくり)
 森林は土砂災害を防止する重要な役割を果たしています。みえ森と緑の県民税を活用し、防災づくりに取り組むことで、災害リスクを減らすことができます。

② 水を貯える(水づくり)
 森林は水を貯える働きがあり、洪水の防止や水不足の解消に貢献しています。みえ森と緑の県民税を活用し、水づくりに取り組むことで、水資源を確保することができます。

③ 地球温暖化を防ぐ(気候づくり)
 森林はCO2を吸収し、地球温暖化を防ぐ働きがあります。みえ森と緑の県民税を活用し、気候づくりに取り組むことで、地球温暖化を抑制することができます。

④ 木の薫る空間づくり
 森林は木の薫る空間を提供し、心身の健康を促進します。みえ森と緑の県民税を活用し、木の薫る空間づくりに取り組むことで、生活の質を向上させることができます。

⑤ 地域の活性化(地域づくり)
 森林は地域の活性化に貢献しています。みえ森と緑の県民税を活用し、地域づくりに取り組むことで、地域の魅力を高めることができます。

【みえ森と緑の県民税の使い方について】
 ●みえ森と緑の県民税は、みえ森と緑の県民税評価委員会によって評価され、結果は公表されます。
 ●みえ森と緑の県民税は、みえ森と緑の県民税評価委員会によって評価され、結果は公表されます。
 ●みえ森と緑の県民税は、みえ森と緑の県民税評価委員会によって評価され、結果は公表されます。

木の薫る空間づくり

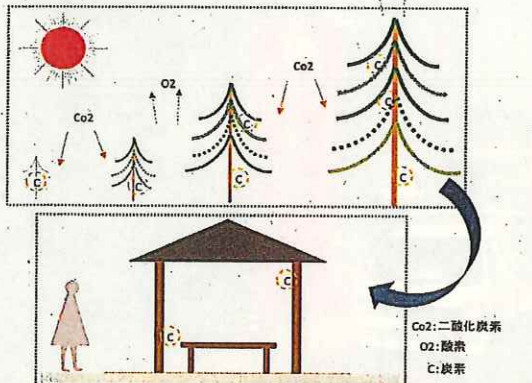
— 木材の利用について —

○地球温暖化防止への貢献

地球温暖化は、大気中に存在する二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が上昇することが原因だと考えられています。地球温暖化を防ぐためには、大気中への二酸化炭素放出を減らし、大気中から二酸化炭素を取り除く必要があります。

植物には、半永久的に利用可能な太陽からの光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を有機物として固定するという重要な働きがあり、特に樹木は幹や枝などの形で大量の炭素を蓄えています。

今回の工事で松阪産の木材を使用した四阿(あずまや)を設置します。木材を利用することは、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することにつながり、二酸化炭素の放出を抑えることにつながります。



みえ森と緑の県民税を活用していることと木材利用が地球温暖化防止に貢献することを周知するチラシ

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番 号	区 分	事 業 名
4	特 別	ベルファーム木造トイレ整備事業
事業費	8,975,880 円(うち交付金 1,461,300円 うち基金活用 0円)	

1. 事業の目的	地域の環境と調和したまちづくりをテーマとする農業公園において、市産材の木材利用を促進し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 農業公園内に市産材を利用したトイレを新規設置し、木質化の推進を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 トイレ1棟（床面積9.9m²、市産材使用量2.4m³）</p> <p>【事業実施期間】 平成30年12月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 農業公園ベルファーム入園者 年間約50万人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 近時、当該施設においてイベント開催が活発化しており、今後より一層、集客数増が見込まれることから、野外トイレ数不足の解消に加えて、建物の材料に市産材を使用することにより来園者の木への関心を深め、森林を支える社会づくりを推進する。</p> <p>【実施した効果】 多くの市民に利用される農業公園において、市産材でトイレを建築することにより、市民が木材とふれあう機会が増え、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市（指定管理者）において、点検の実施など維持管理を行っていく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 看板の設置により、森林の大切さや緑の循環など、意識の向上につとめた。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 来園者には木材を利用した真新しいトイレが整備されたことで、大変喜ばれている。また、材料が木材ということで、温かみがあり、木に対する親しみを感じるという反応を得ている。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	松阪市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	特別	ベルファーム木造トイレ整備事業
事業費	8,975,880 円(うち交付金 1,461,300円 うち基金活用 0円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負</p> <p>【実施方法の選定理由】 請負することで実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため。また、競争入札により経費の節減にも繋がる。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札落札率84.72%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 入札条件に適合した参加者により、一般競争入札を行い、落札した業者である。</p> <p>【事業費の積算根拠】 屋外トイレ1棟 約9百万円</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 農業公園ベルファーム入園者 年間約50万人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が管理する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地域の住民や自治会長に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施中の実績】 のぼり旗により、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【実施後の実績】 事業地に看板を設置し、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。</p> <p>【今後の見込】 当事業の内容を市HP等でPRしていくことを検討している。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	ベルファーム木造トイレ整備事業
-----	-----------------

7. 写真

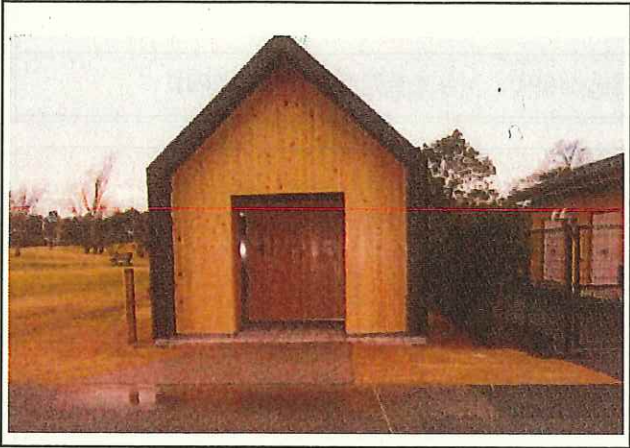


写真1
屋外トイレ完成写真 外観その1
農業公園ベルファーム



写真2
屋外トイレ完成写真 外観その2
農業公園ベルファーム

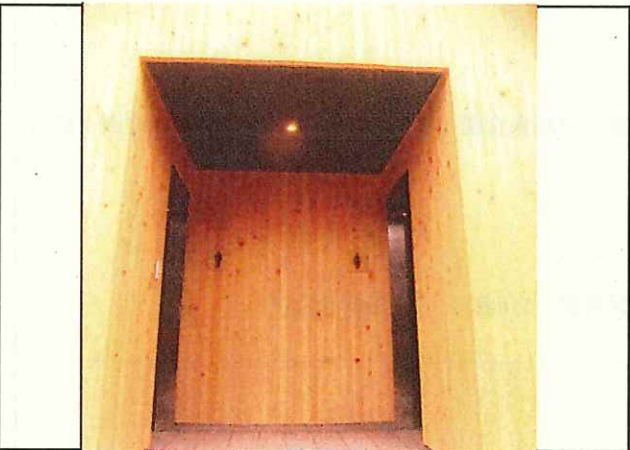


写真3
屋外トイレ完成写真 入口
農業公園ベルファーム

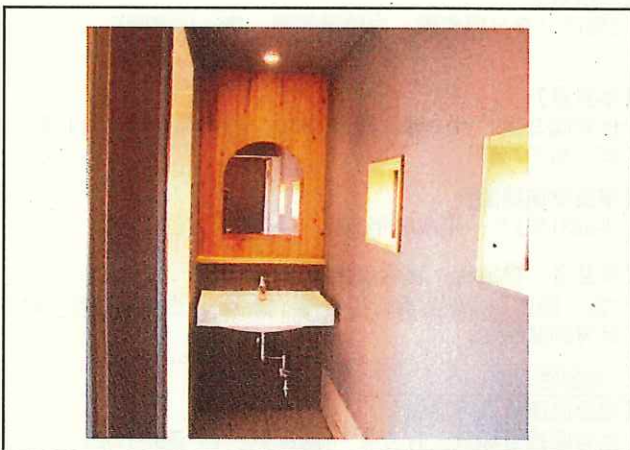


写真4
屋外トイレ完成写真 洗面所
農業公園ベルファーム

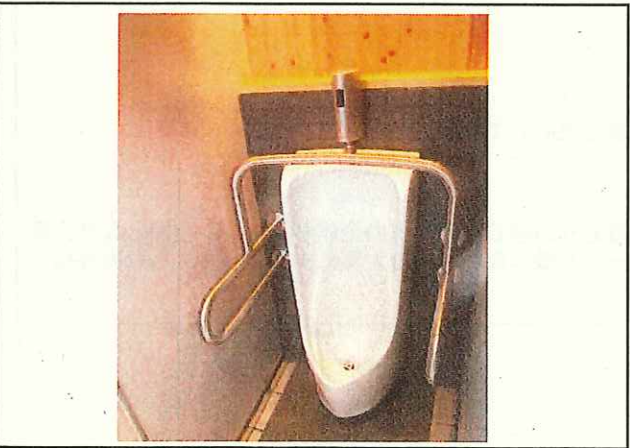


写真5
屋外トイレ完成写真 トイレその1
農業公園ベルファーム

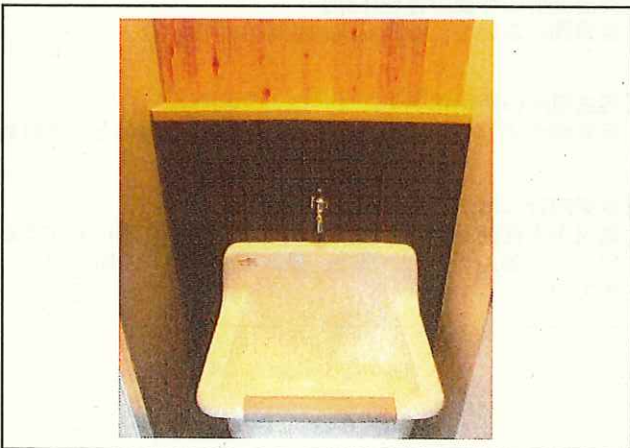


写真6
屋外トイレ完成写真 トイレその2
農業公園ベルファーム

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	松阪市
番号	区分	事業名		
5	基本・特別	保育園管理事業費		
事業費	11,429,640 円(うち交付金		11,429,640円	うち基金活用 0円)

1. 事業の目的	市内の保育園の机・椅子を木質化し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市内の保育園の机・椅子を木質化する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 3箇所（春日保育園、白鳩保育園、第一保育園）</p> <p>【事業量】 保育園3園：机88脚、椅子366脚（春日保育園：机43脚、椅子200脚 白鳩保育園：机24脚、椅子91脚 第一保育園：机21脚、椅子75脚）</p> <p>【事業実施期間】 平成31年1月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 3園：園児数406名（春日保育園：200名、白鳩保育園：91名、第一保育園：115名）とその保護者及び保育園関係者。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 保育園担当職員と打合せ・確認等を行い選定した。</p> <p>【実施した効果】 園児たちが、市産材で木質化された机・椅子を使用することで、木材とのふれあいが進み、木の持つ独特の温かみや香りなど、木の良さが実感できた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 保育園において、備品の維持管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 保育園だより等で、森林の大切さや緑の循環など、木材利用の意義を説明していく。</p> <p>【事業内容に対する住民等の反応】 園児が木材とふれあう機会が増えたことで、木に対する親しみや温もりが感じられ、室内全体が柔らかい空間となり、園児たちも喜んでいる。また、絵を描いたりする時にはビニールシートを敷くなど、物を大切にすることを育てられ高評価を得ている。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	松阪市
番号	区分	事業名		
5	基本・特別	保育園管理事業費		
事業費	11,429,640 円(うち交付金 11,429,640円 うち基金活用 0円)			

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
物品売買契約

【実施方法の選定理由】
森林環境づくりに配慮した家具を保育園に配備するため。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約

【契約相手方の選定理由】
市内の小学校で市産材を使用した机・椅子の納入実績があり、また、市内で唯一市産材で家具製造ができる業者であるため。

【事業費の積算根拠】
3歳児用机セット 約8万円など

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
春日保育園の全園児(200名)、白鳩保育園の全園児(91名)、第一保育園の全園児(115名)とその保護者及び保育園関係者としている。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
個人が所有する森林等の整備でなく、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
公共施設の物品購入であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
「保育園だより」等により、園児保護者や園関係者に、この財源が「みえ森と緑の県民税」であることの周知を行った。

【実施中の実績】
物品購入であり、実施中に該当する期間がないため、実施前後に周知した。

【実施後の実績】
机・椅子に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」を貼付けることで周知を行った。

【今後の見込】
保育園の掲示板等や保護者参観日等の機会を通じて、一層の周知を行っていく。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
平成26年度より市内の22園で継続的に実施しており、未就学児に木材とふれあう機会を提供している。平成26年度～30年度の5ヵ年で18園に机・椅子を導入している。

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	保育園管理事業費
-----	----------

7. 写真



写真1
購入した机・椅子の設置状況



写真2
購入した椅子に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」の貼付状況



写真3
購入した机に「みえ森と緑の県民税ロゴマーク入りシール」の貼付状況

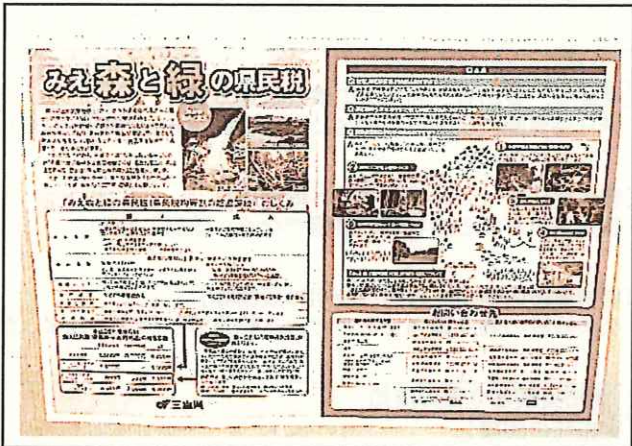


写真4
掲示板で「みえ森と緑の県民税」の周知と森林の大切さや必要性を説明

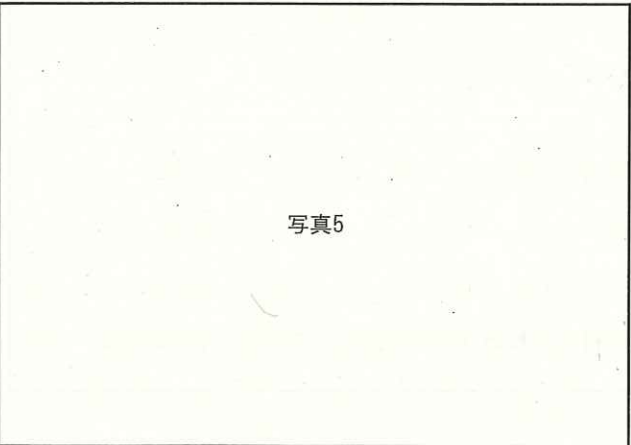


写真5

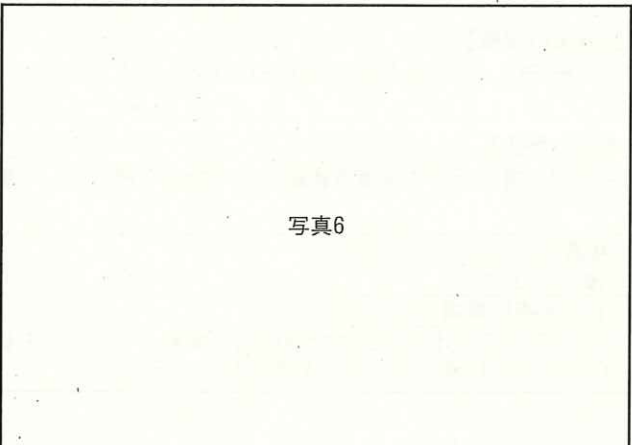


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	多気町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	県産材を活用した学校机・イス整備事業
事業費	9,412,200 円(うち交付金	7,899,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>木材は柔らかかで温かみのある感触を有するとともに、室内の温度変化を緩和させ、快適性を高める等優れた性質を備えている。町内の小学生に県産材の木材について学びふれあう機会を提供するとともに温かみと潤いのある教育環境づくりを進める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 5年間で町内小学校へ県産材を活用した机・イスの整備を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 多気町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 5箇所(相可小学校、佐奈小学校、津田小学校、外城田小学校、勢和小学校)</p> <p>【事業量】 町内全小学校の平成30年4月入学生分101セット、平成31年4月入学生分135セット 平成30年6年生13セット</p> <p>【事業実施期間】 平成30年8月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 町内全小学校の平成30年4月入学の小学1年生 101人、平成30年4月入学の小学1年生 135人 平成30年6年生13人 計249人とその保護者</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 町内の全小学校を対象</p> <p>【実施した効果】 机とイスはすべて部材を県産材の木材を使用しており、木材の温かみを感じてもらい、6年間の学校生活を通して愛着を深め緑や木に関心を持ってもらうきっかけになる。また、木材によるやわらかい空間づくりで快適な室内環境を整える。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 各小学校が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 県産材の木材について学びふれあう機会を作り、感受豊かな子供たちを育てる。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 県産材でできた机・イスは手触りが良く、子供たちには良い学習環境になっている。机・イスは木でできているため重い、その重さが木への愛着へとつながるのではとの意見をいただいた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	多気町
番号	区分	事業名	
1	基本	県産材を活用した学校机・イス整備事業	
事業費	9,412,200 円(うち交付金	7,899,000 円	うち基金活用 0 円)
4. 効率性			
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町が購入し各小学校に配布した。			
【実施方法の選定理由】 町立小学校の備品購入であるため。			
【契約方法と落札率または補助率等】 見積り入札			
【契約相手方の選定理由】 平成26年度からの継続事業であり、以前購入した机・イスと規格を揃えるため、同等のものを製作している業者で見積もりを取った。			
【事業費の積算根拠】 製品カタログを参考にした。			
5. 公益性（波及度）			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 平成30年度新入学生は不足分を購入し、平成31年度新入生は事業費内で購入できる数とした。			
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 机・イスの備品購入であるため、転用等が想定されず、該当しない。			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 町内各小学校へのポスター掲示			
【実施中の実績】 町内各小学校へのポスター掲示			
【実施後の実績】 町の広報へ机・イスの整備について記事掲載。			
【今後の見込】 多気町文化会館にてポスターを掲示し町民に周知する。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 多気町

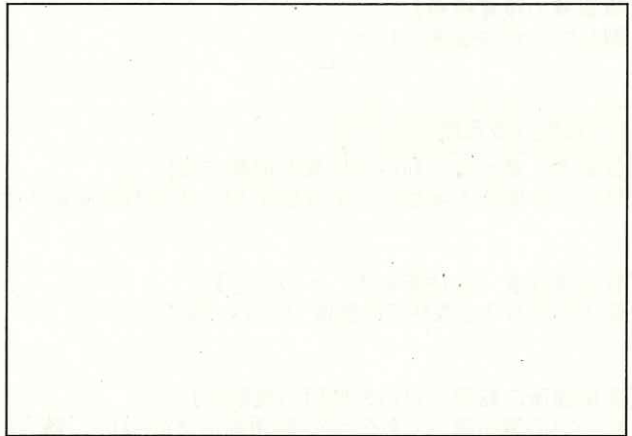
事業名 県産材を活用した学校机・イス整備事業

7. 写真



写真1
検査写真

写真2
検査写真2



取り入れた机・イスに座っての授業風景

写真4

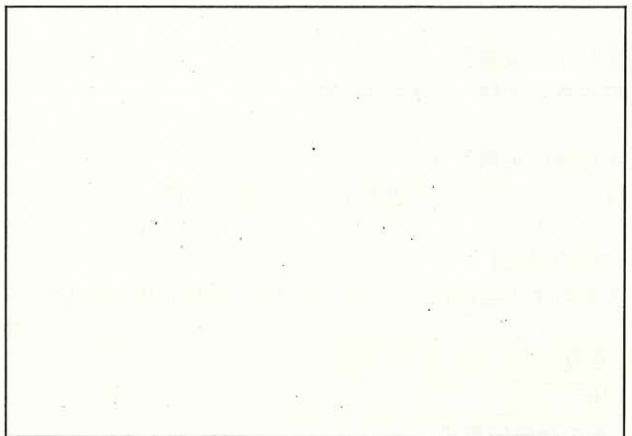
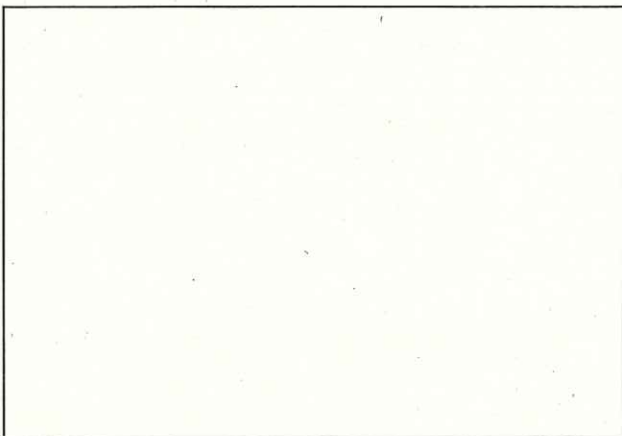


写真5

写真6

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり		市町名	多気町
番号	区分	事業名		
2	特別	土砂・流木撤去事業		
事業費	10,180,080 円(うち交付金	10,174,000 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	台風21号で被災を受けた住民が安心して暮らすことができるよう復旧作業を行う。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 多気町において台風21号の被害を受けた地域を復旧する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 多気町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1カ所(前村地区)</p> <p>【事業量】 施工延長 L=51.4m 土工 掘削 V=549.7m³ 大型土のう設置 N=95.0袋 法面工 法面整形 A=518.4m² 立木撤去工 立木処分 69.0t 水路工 排水管設置工 L=26.0m 仮設工 仮設道工(敷鉄板) A=320.5m²</p> <p>【事業実施期間】 平成31年1月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 前村地区住民</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 台風21号で被災を受けた住民が安心して暮らすことができるよう選定を行った。</p> <p>【実施した効果】 復旧工事を実施したことにより住民が安心して暮らすことができるようになった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 多気町、森林所有者で維持管理。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 土砂撤去工事等終了後は所有者により管理する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 自分自身では撤去が難しかった土砂がなくなり安心して暮らすことができるようになった。</p>

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり	市町名	多気町
番号	区分	事業名	
2	特別	土砂・流木撤去事業	
事業費	10,180,080 円(うち交付金	10,174,000 円	うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 台風21号における土砂・流木を撤去することにより地域住民が安心して暮らすことができるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林整備などの実績を伴う業者で指名競争入札を行う。</p> <p>【事業費の積算根拠】 積算基準をもとに算定を行う。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 前村地区住民、地元企業</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 多気町と所有者とで管理していく。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 特にもうけていない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 対象地区の住民に当事業で土砂・流木の撤去を行う文書を回覧を実施した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に当事業を活用していることを明示した。また、工事看板に当事業の旗をくくりつけ周知した。</p> <p>【実施後の実績】 整備後は標柱を建てた。</p> <p>【今後の見込】 多気町文化会館にてポスターの掲載と町広報への掲載。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	多気町
-----	-----

事業名	土砂・流木撤去事業
-----	-----------



写真1
完成写真1



写真2
完成写真2



写真3
完成写真3



写真4
のぼり



写真5
標柱

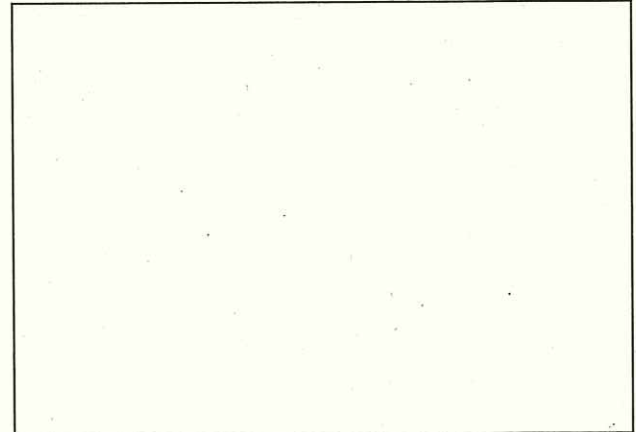
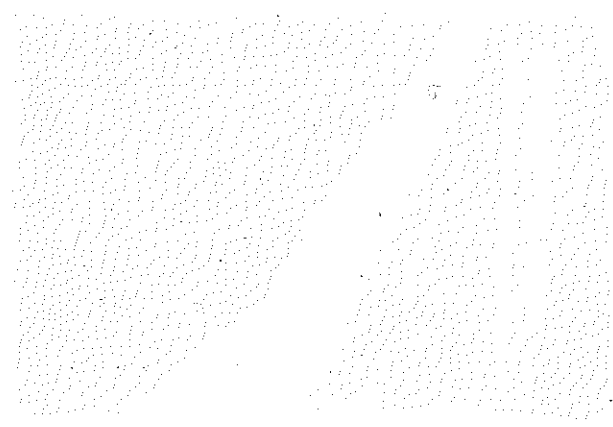
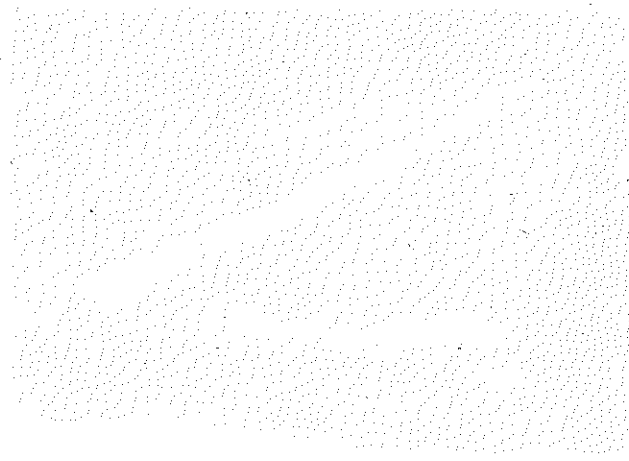
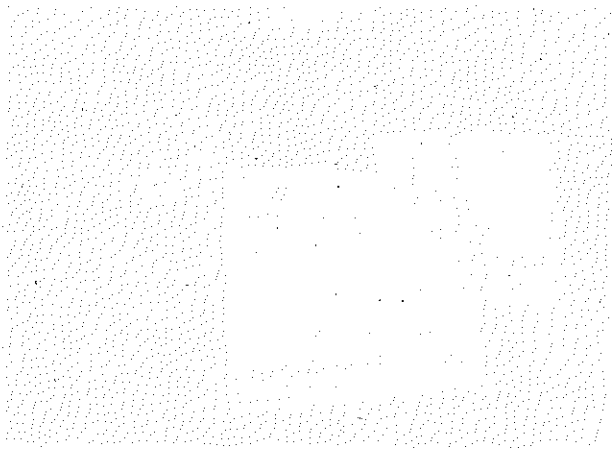
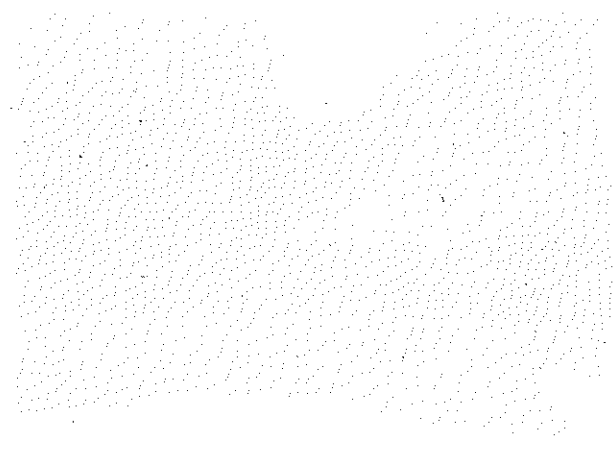
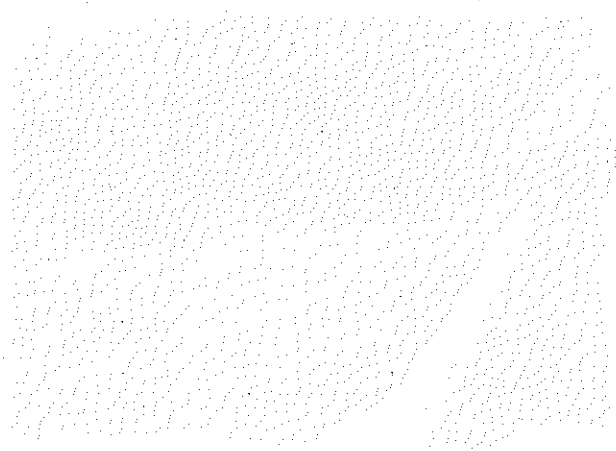


写真6



対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	明和町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	学校木製備品購入事業
事業費	6,946,560 円(うち交付金	6,907,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>小学校の学校備品(授業用机や椅子等)を三重県産木製品に取り換えることで、森林・林業への理解を深め、森林や緑を大切に思う温かい心を育む。 木のぬくもりを通して身近に森林や緑とふれあう機会を提供する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 小学校における森林教育の一環として、学校備品(授業用机や椅子等)を順次県産木製品に取り換える。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 明和町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 町内6小学校(大淀小学校、下御糸小学校、上御糸小学校、斎宮小学校、明星小学校、修正小学校) (町内全小学校)</p> <p>【事業量】 町内6小学校の次年度新入生用の県産木製備品(授業用机・椅子):192組</p> <p>【事業実施期間】 平成30年11月から平成31年3月 (平成26年度からの継続事業)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 町内6小学校の新入生:192人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 町内6小学校の新入生が持ち上がりで使用することで、小学校生活を通して木のぬくもりを感じ愛着がわく。</p> <p>【実施した効果】 導入した木製備品(授業用机・椅子)は6年生まで持ち上がりで使用することにより、日常的な使用を通して、木材とのふれあいが進む。 森林や緑を大切にすることを育まれ、地球温暖化問題等への理解を深めるきっかけとなる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 木製備品(授業用机・椅子)を配備された各小学校(町立)で管理。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 三重県産木材を使用していることを伝えている。 木製備品(授業用机・椅子)は持ち上がりで使用するので、地球温暖化対策としての木材利用の意義等、学年(児童の成長)に合わせた対応を検討していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 保護者や教員への聞き取りの結果、「木のぬくもりを感じる」「木の手ざわりがよい」「使いやすく親しみやすい」「持ち上がりで使用することで物を大切にすることを育んでいきたい」との声をいただいている。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	明和町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	学校木製備品購入事業
事業費	6,946,560 円(うち交付金	6,907,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町で一括契約(購入)している。</p> <p>【実施方法の選定理由】 町立小学校の備品購入であるため、一括契約によりコスト削減につながる。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 町会計規則に基づき、見積徴収の上、随意契約(1社)を実施。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 木材を授業用机・椅子に加工できる事業所が県内に1社しかないため。</p> <p>【事業費の積算根拠】 過年度の実績を踏まえた見積徴収による積算。 台数は新入学生の見込数。</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 町内6小学校の新入学生見込数。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町立小学校(公共施設)において木製備品(授業用机・椅子)を管理するため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 ポスターの掲示により、税を活用することを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 ポスターの掲示により、税を活用することを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 町ホームページへの掲載により、税を活用して実施した事業であることを広く紹介している。</p> <p>【今後の見込】 日常的な使用により木材とふれあうことで、森林や緑に興味関心をもってもらい、親子や地域単位での森林環境教育につながるような取り組みを検討していく。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
平成26年度から町内の全ての町立小学校に継続して整備しており、入学から卒業まで日常的に木材とふれあう機会を整備している。

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	明和町
-----	-----

事業名	学校木製備品購入事業
-----	------------

7. 写真



写真1
木製備品(授業用机・椅子) ※ロゴ(県民税活用周知)

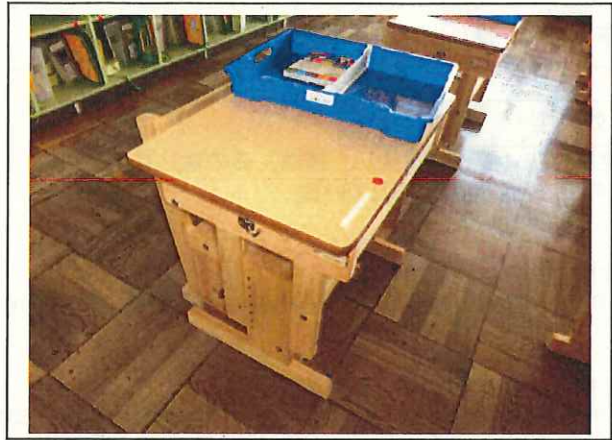


写真2
木製備品(授業用机・椅子) ※ロゴ(県民税活用周知)

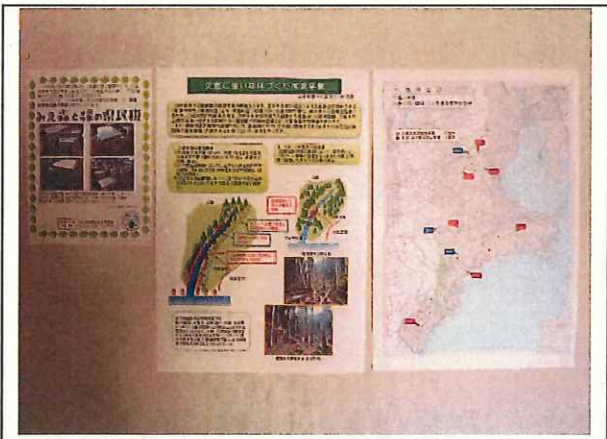


写真3
事業啓発(ポスター、取組事例の掲示)



写真4
事業啓発(ポスター、取組事例の掲示)



写真5
事業啓発(イベントでの周知、啓発)

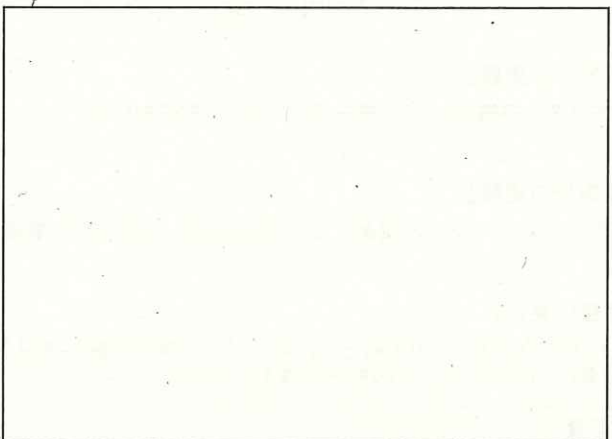


写真6

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	ほっとする道ばた森林整備事業
事業費	5,054,400 円(うち交付金	5,000,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>宮川と道路間にある人工林は、集約化や路網整備による効率化を目指した林業経営は困難な立地環境であり、間伐による経済性を望むことは難しく、今後もこのような取扱の困難な林地は放置される可能性が高い。道路沿いに整備されている電線は、台風による風倒木で分断され停電を招くことも多く、このような林地の整備を行うことが災害対策として有効であると考えられる。さらに、宮川への土砂流出防止といった効果も期待でき、これにより、水質日本一を取り戻すことを目指していく。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 宮川と道路間にある人工林の整備を行う。H30年度においては、小滝地内の沿道林の整備を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく該当しない</p> <p>【箇所数】 大台町小滝地内私有林(地権者数2名)、滝谷地内私有林(地権者2名)</p> <p>【事業量】 小滝地内 伐採:0.16ha(168本)、植栽:地域性広葉樹苗木180本 滝谷地内 植栽:地域性広葉樹苗木270本(※H27同事業による伐採箇所)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年11月30日～平成31年3月15日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 幹線道沿いであり通行者は不特定多数</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 本事業の実施箇所の選定にあたっては、地域説明会等を開催し事業の趣旨と候補地の説明を行い、対象が私有林となるため、地域と森林所有者の協力が不可欠であり、区長の協力を得ながら候補地の選定を行っている。</p> <p>【実施した効果】 風倒被害等の懸念が無くなり、広葉樹植栽により公益的機能の向上から安全安心の確保に繋がった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 伐採後は公益的機能を高める森林管理が必要なことから、森林所有者に事業の趣旨を十分説明を行い森林所有者が管理を行っていく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 広葉樹林として、公益的機能の高い森林として管理していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 風倒被害等の懸念が無くなり地域住民からは評価を得ている。広葉樹植栽については、森林所有者と地元から、公益性の高い森林づくりを要望されていたため高い評価を得ている。</p>

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	ほっとする道ばた森林整備事業
事業費	5,054,400 円(うち交付金 5,000,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 請負により実施</p> <p>【実施方法の選定理由】 道路沿いの森林伐採は特殊伐採であり、実績のある認定林業事業体より選定を行った。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 2社見積入札(宮川森林組合、橈フォレストファイターズ)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 伐採は林業機械等の大型重機が必要な現場であり、専門的な技術を有する認定林業事業体より選定している。</p> <p>【事業費の積算根拠】 三重県設計単価表及び単価見積りにより積算</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 事業箇所は幹線道路沿いであり通行者は不特定多数であるが、公益的機能の高い森として長期的に機能を発揮できる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 事業趣旨を十分に説明し理解していただき、広葉樹植栽箇所は公益的機能の高い森林として管理していく。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用や目的外使用には適さない場所のため該当しない</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 対象森林所有者及び地元区長へ税活用について説明を行った</p> <p>【実施中の実績】 事業箇所への「森林税のぼり」の設置と、工事看板への森林税活用表記 役場ロビーにて「みえ森と緑の県民税事業紹介」の展示を行い、過年度事業の紹介を行った (展示期間:平成31年2月1日～3月15日迄)</p> <p>【実施後の実績】 標柱の設置と町ホームページで森林税活用事業の紹介</p> <p>【今後の見込】</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 大台町

事業名 ほっとする道ばた森林整備事業(伐採)

7. 写真



写真1 伐採箇所(施工前状況①)



写真2 伐採箇所(施工後状況①)



写真3 伐採箇所(施工後状況②)



写真4 植栽地における防鹿柵設置状況



写真5 事業周知看板の設置



写真6 事業周知のため展示の実施
(大台町役場宮川総合支所玄関横)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	水源林整備事業
事業費	17,358,840 円(うち交付金	17,035,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	三重県水源地域の保全に関する条例が施行され、森林の有する水源の涵養機能の維持増進を図るため保全する必要がある地域が特定水源地域として指定された。 町内の特定水源地域に指定される山林の内、人工林は3,991haあり、そのうちで過去5年以内に施業が行われた森林は573haと14%程度となっている。今後も高い公益的機能を維持していくには公的な整備を加速させる必要がある。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 特定水源地域に指定されている森林において、間伐や広葉樹植栽を行い、森林の有する水源かん養機能の維持増進につなげることを目的として、公的な整備を実施していく。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 大台町</p> <p>【補助率等】 補助事業でないため、該当しない。</p> <p>【箇所数】 大台町地内 41地区 77林班</p> <p>【事業量】 間伐46.90ha 森林調査947プロット(49.36ha)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年11月30日～平成31年3月15日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 大台町民(9,208人 4,106世帯 H31.3末現在)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 過去の施業履歴や現地調査の結果を踏まえて、施業箇所の選定を行った。</p> <p>【実施した効果】 森林の有する水源かん養機能の維持増進が図られると共に、災害に強い森林づくりが行える。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 水源かん養機能が高く発揮できる森林として保全していくため、森林所有者とは水源林として維持管理していくための協定の締結を行った。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 水源かん養機能が高く発揮できる森林として保全していく</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 大台町は広大な森林と清流日本一の町であり、県民税を活用して水源のある森林を整備していくのは非常に有効な手段と、地域から評価をいただいた。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
番号	区分	事業名	
2	基本	水源林整備事業	
事業費	17,358,840 円(うち交付金	17,035,000 円	うち基金活用 0 円)

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
町による工事請負契約

【実施方法の選定理由】
森林環境創造事業による公益的機能を高めるための森林整備実績があるため、森林調査に基づき適切な間伐を実施した。

【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札

【契約相手方の選定理由】
指名競争入札による落札者と契約している。

【事業費の積算根拠】
森林調査(本数調査)を行い、森林環境創造事業標準単価により積算を行った。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
大台町民(9,208人 4,106世帯 H31.3末現在)の水源地として、適切な森林管理を行うことにより永続的に水源の利活用ができる。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
水源林整備として事業を実施した旨の説明をおこない、適切な維持管理を行っていくため協定を締結した。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
転用や目的外使用には適さない場所のため該当しない

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
着手前に、各区長、森林所有者に事業説明を行っている。その際、税を活用していることを周知した。

【実施中の実績】
工事期間中、工事看板に県民税活用の表示を行った。

【実施後の実績】
標柱の設置と町のホームページに税活用の紹介と、実施前後の写真を掲載する。

【今後の見込】

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	1. 土砂や流木を出さない森林づくり
------	--------------------

市町名	大台町
-----	-----

事業名	水源林整備事業
-----	---------

7. 写真



写真1
施工前①



写真2
施工後①



写真3
施工前②



写真4
施工後②



写真5
施工前③



写真6
施工後③

